

氏名(本籍)	和田学(島根県)
学位の種類	博士(芸術学)
学位記番号	博甲第3627号
学位授与年月日	平成17年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	芸術学研究科
学位論文題目	20世紀のアメリカ合衆国における美術鑑賞教育論の史的展開 - 「ピクチャー・スタディー」から「美術批評」へ -
主査	筑波大学助教授 博士(芸術学) 岡崎昭夫
副査	筑波大学助教授 博士(芸術学) 齋藤泰嘉
副査	筑波大学講師 博士(芸術学) 直江俊雄
副査	茨城大学教授 博士(美術) 金子一夫

### 論文の内容の要旨

本論文の目的は、20世紀のアメリカ合衆国における美術鑑賞教育の史的展開を、先導的な役割を果たした鑑賞教育の提唱者の理論とその影響を通して、考察することにある。本論文は、その目的と対象、研究方法と内容構成などが記述された序章に続いて、全7章で本文が構成され、結章において本研究の考察や結論などが示されている。

第1章は、19世紀末～20世紀初頭までの時期に普及した「ピクチャー・スタディー」について考察している。名画に関する作家の生涯や画面が示す物語などに関する鑑賞方法は、初等・中等学校にモノクロの複製画が鑑賞教材として導入されていく中で、普及していく。ボストンのL・プラング商会による美術教育指導書の出版、鑑賞教育が普及する素地としての「複製画」の出現、「ピクチャー・スタディー」の普及に重要な貢献をしたベーレー(Henry Bailey)の美の教育としての鑑賞教育論、彼の編集による機関誌『スクール・アーツ』における「ピクチャー・スタディー」の喧伝、などの史的事実から、美術教育運動としての「ピクチャー・スタディー」を跡づけている。

第2章では、1930～1950年代までの児童の創造性の育成を重視した進歩主義教育の時代に焦点を当て、以下の史的展開が記述されている。1929年の世界恐慌以降の大不況の中で生活美術の思想が普及し、進歩主義教育の影響下で体系的な美術プログラムの一部として鑑賞が位置づけられた。1940年代にはニュー・バウハウスの影響下にデザイン教育が普及し、1947年にはNAEA(全米美術教育協会)が発足した。1950年代にはユネスコ支援下における国際的な教育会議の開催を通して児童美術展が普及した。その展示に関してNAEA選出の指導者となったローウェンフェルド(Viktor Lowenfeld)を中心に1950年代に「創造性」の育成を重視した美術教育が隆盛期を迎えた反面で、鑑賞教育への関心は大幅に低下した。しかし、マンロ、ジグフェルド、フォークナー等の20世紀中期の主要な美術教育研究者による美的教育に関する理論的研究は、次の時代の鑑賞教育の基盤を形成したことを見出している。

第3章は、20世紀後半の美術教育の思想に影響を及ぼした教育哲学者ブラウディー(Harry Broudy)の活動を考察している。彼の提案した「一般教育哲学における美の領域」という思想は、制作活動よりも鑑賞

を重視したものであり、「美術批評」教育が普及する思想的基盤となった。この章では、1950年代の彼の思想、1960年代イリノイ大学において彼を中心に展開した教師教育プロジェクトや、彼が最も強い影響を及ぼしたカリフォルニア州で展開された現職教員教育プロジェクト（Aesthetic Eye Project：1975～1976年）の経過を考察している。特に、このプロジェクトでは、1980年代のDBAE（Discipline-based Art Education：学問に基づいた美術教育、美学・美術史・制作・美術批評の4領域のバランスを保った学習内容の提唱する運動）のスタッフとなるメンバーが中心となっていた結果、ブラウディーの思想は1980年代におけるDBAEの理論に直接的な影響を及ぼすこととなった。

第4章は、1960年代後半～1970年までの美術鑑賞教育改革について焦点を当てている。特にオハイオ州立大学では、1960年代の「学問に基づいた」美術教育の先駆者であるバーカン（Manuel Barkan）が勤務しており、連邦教育局支援のもとで美術鑑賞教育改革のプロジェクトが展開された。まず、1960年代のバーカンの研究活動を考察し、次にこのプロジェクトの展開を要約している。そして、このプロジェクトの指導者エッカー（David Ecker）や研究報告書の査読員として招聘されたウイスコンシン大学の美学者ケリン（Eugene Kaelin）などの、主要スタッフの活動・論考から鑑賞教育の思潮を跡づけている。

第5章は、連邦教育局支援下の1965年8月31日～9月9日までペンシルバニア州立大学で開催されたりサーチとカリキュラム開発セミナーに参加した研究者の「美術批評」教育観とその活動について考察している。このセミナーには、スタンフォード大学のアイズナー（Elliot Eisner）、イリノイ大学のスミス（Ralph Smith）、ジョージア大学のフェルドマン（Edmund Feldman）等、1960年代の代表的な「美術批評」教育研究者等が参加していた。特に、フェルドマンは「記述、分析、解釈、判断」という段階からなる批評方法を提案した研究者で、こうした彼の方法論はスミスによりイリノイ大学のカリキュラム開発に導入された経緯が説明されている。

第6章は、20世紀後半において「美術批評」教育を奨励し、その普及に尽力したイリノイ大学出版局の『美的教育ジャーナル』編集長スミスの教育政策と批評教育の奨励について記述している。この章では、1960年代のカリキュラム開発の時期、1970年代のサーチと教師教育の時期、1980年代のDBAEの時代、という10年単位でスミスの研究活動を跡づけ、最後に20世紀全体を俯瞰するスミス自身の「美術批評」教育観について考察している。

第7章は、1980年代以降のポール・ゲッティ財団の教育センターのDBAE運動の普及時期を考察している。ここでは、「学問に基づいた」美術教育への反論から、ゲーヒガン（George Geahigan）によるフェルドマン批判がなされ、それを契機として20世紀末期に起こった2人の美術批評教育論争と、その結果として明らかになった「美術批評」教育が含む問題点を検討している。

本論文では、アメリカの鑑賞教育に関する多数の文献資料を考証した結果、1) 20世紀初頭から1930年代までに、「ピクチャー・スタディー」の普及や「ピクチャー」と「鑑賞」の並行的使用を通して、体系的な鑑賞方法が提唱されていたこと、2) 20世紀中期においては、制作を中心とした美術教育が主流となり、美術の理解を重視する鑑賞教育は注目されなかったが、人文主義的観点から美的価値の教育を重視する研究者が存在し、後の鑑賞教育の展開の基盤が形成されていたこと、3) 1960年代末までには、鑑賞方法として、フェルドマンの「美術批評」教育がスミスによりブラウディー影響下のイリノイ大学のカリキュラム開発に導入された結果、「記述・分析（形式分析）・解釈・評価（判断）」という美術「批評モデル」が確立していたこと、4) 1960年代後半から「美術批評」教育の普及に貢献してきたスミスとゲーヒガンによる「美術批評」教育の共著が1997年に発行され、それと同時に、ゲーヒガンと「美術批評」教育の提唱者のフェルドマンとの間に論争が起こり、そこに20世紀後半の「美術批評」教育の史的展開が集約されていたこと、という4つの事項を確証している。

## 審査の結果の要旨

本論文は、20世紀のアメリカにおける美術教育の展開のなかで、研究者の鑑賞教育に関する主要な言説に焦点を当てることを通して、鑑賞教育論の概説史を形成しようとした労作である。

本論文は、日本の文部科学省のような教育行政機関が存在せず、全米的な教育制度や教科書の変遷を通して史的展開が記述できないので、美術鑑賞教育に関する多数の英語文献を収集し、それらの講読を通して歴史的展開の節目となる鑑賞教育の提唱者の言説を見出し、彼らの主張を年代順に配列して考察を加え、ほぼ一世紀にわたるアメリカ美術鑑賞教育の史的展開の一端を、客観的な歴史的事実に基づいて、明示している。文献の収集・講読・分析・考察、さらには翻訳・史的構成・執筆・校正という作業は、長期にわたる研究対象への強い興味・関心が必要不可欠であるが、著者は真面目で真剣な研究態度を継続して、自ら設定した研究目標に到達している。

専門委員会においては、こうした著者の研究に傾けた努力と熱意が高く評価され、さらに「ピクチャー・スタディー」から「美術批評」へと至る20世紀のアメリカ合衆国における美術鑑賞教育論の変遷を確証したことにより、本論文は日本におけるアメリカの美術教育研究への貢献が期待でき、後続の研究者に対してアメリカの鑑賞教育を俯瞰する研究地図としても活用されることも予想されることから、基礎的研究としての一定の意義が認定された。

日本の美術教育史においては、「ピクチャー・スタディー」が大正期に新しい思潮として紹介され、終戦直後の図画工作科の指導要領試案（アメリカのバージニア州の指導要領の翻訳に基づく）に「鑑賞」という用語が初めて導入されて既に半世紀以上が経過しているが、鑑賞教育には顕著な進展は見られない。最近になり、ようやく日本各地の美術館における積極的な教育普及活動に刺激されて、学校教育でも美術鑑賞教育への関心が高まっている現況を考慮すれば、本論文が見出して検討を加えたアメリカにおける「美術批評」教育の理論や方法は、日本の今後の美術鑑賞教育の進展に一定の方向性を示唆するものと考えられる。

よって、著者は博士（芸術学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。